

「Who is Bad」

(後編)

—初稿—

2024/12/16

米俵

〈人物表〉

佐伯 美波 (21) 大学生

新木 くるみ (21) 大学生

大橋 凌 (24) 会社員

〈ログライン〉

(後編) ・美波は、しつこいくるみに諭すような言葉をかけるが、実は全てバ
しており、一年後復讐される話。

(全話) ・美波は、くるみから彼を奪うが、一年後にくるみに刺される話

〈ねらい〉

・二面性を書く

1. カフェ・店内(昼)

店内にはクリスマスソングが流れている。

美波とくるみ、向かい合って座っている。

くるみ、目を腫らしている。

美波、心配するような声で、

美波 「まだ繋がらない？」

くるみ、黙ったまま頷く。

くるみ 「会社にも電話してみたんだけど……」

美波 「えっ？」

くるみ 「駄目だった……」

美波、黙る。

くるみ 「あの後、凌ちゃんから折り返しって、きた？」

美波 「来てないよ」

くるみ 「もう、どうしたらいいんだろ……」

美波 「今は……待つしかないかもね」

くるみ、聞いていない様子で、携帯を確認する。

くるみ 「美波に連絡きたら、教えてね」

美波 「うん……きたら」

くるみ、睨むような目つきで、

くるみ 「本当に来てないよね？」

美波 「来てないよ。なんで？」

くるみ、首を振って、

くるみ 「ごめんね。なんか、気になっちゃって」

美波 「そっか……」

美波、無表情でカフェオレをかき混ぜる。

2. 美波の部屋・室内(夜)

暗い部屋。

美波、眠っている。

携帯の時間表示は3時。くるみからの着信が入る。

美波、眠そっにしなから、確認する。

溜息をついてから、

美波 「もしもし」

くるみの声 「美波？ ごめんね」

美波 「どうしたの?」

くるみの声 「凌ちゃんから、連絡あったかなって」

美波 「ないよ」

くるみの声 「そっか」

美波 「くるみさ、ちゃんと寝てる?」

くるみの声 「……」

美波 「少し寝た方がいいよ」

くるみの声 「そうだね……」

美波 「じめん。私、明日早いから、寝るよ?」

くるみ、しばらく沈黙してから、

くるみの声 「ねえ、本当に連絡ないよね?」

美波 「……ないよ」

電話が切られた音だけが聞こえる。

3. 大学・校内（昼）

美波、友人たちと話しながら、歩いている。

くるみからの着信に気付くが、無視する。

その後、すぐに知らない番号からの着信。

美波 「もしもし」

凌の声 「美波、おれ」

美波、友人たちから離れる。

美波 「ちよっと。こつちが大変なんだけど」

凌の声 「なんで?」

美波 「凌から連絡ないかって、毎日電話来るんだけど」

凌の声 「まじ?」

美波 「もっと上手く別れてよ」

凌の声 「俺、金も振り込んだんだけど」

美波 「えっ?」

凌の声 「婚約破棄だって騒ぐから。金要求されて」

美波 「いくら?」

凌の声 「……50万」

美波 「本当に?」

凌の声 「もう手切れ金だなんて思って」

美波 「そうなの?」

凌の声「はー？ まじ無理」

美波「……」

凌の声「美波、上手く言っつてよ」

美波「……」

凌の声「とりあえず、また連絡すんね」

美波「ちよつと——」

電話が切れる。

美波、眉間に皺を寄せる。

4. 美波の部屋・室内（夜）

美波、大学のレポートを作成している。

インターフォンが鳴る。

美波、時間を確認する。深夜1時。

物音を立てないよう玄関へ移動し、ドアスコップから確認する。

髪もぼさぼさ。やつれた様子のくるみが立っている。

美波、仕方ないといった様子で、ドアを開ける。

くるみ「ごめんね。こんな時間に……」

美波「びっくりした」

くるみ、泣きそうな顔で、

くるみ「一人じゃ辛くて」

美波「入りなよ」

美波、くるみを部屋に入れる。

× × ×

美波、温かいお茶を出す。

それをゆっくりと飲むくるみ。指輪は、はめられたまま。

くるみ「番号変えられちゃったみたい」

美波「そっか……」

くるみ「凌ちゃんから、連絡——」

美波「ないよ」

くるみ、美波をジッと見る。

沈黙。

くるみ「婚約までしてたのに酷いよね……」

美波 「……」

くるみ 「凌ちゃん、許せない」

美波 「……そうだね」

くるみ 「美波もそう思うよね？　じゃあ、協力して」

美波 「何するの」

くるみ 「凌ちゃんのお給料のいくらかを毎月貰いたい」

美波 「えっ?」

くるみ 「慰謝料だよ」

くるみ、目が座っている。

美波 「ちよっと待って。落ち着いて」

くるみ 「本気だから」

美波 「それは、無理かなって思う。法律的にも……」

くるみ、涙を流し、手で顔を覆う。

くるみ 「……悔しい」

美波 「話聞くから。全部吐き出そう」

と、疲れたような表情で、くるみの背中をなぐる。

5. 美波の部屋・室内（朝）

くるみ、朝食の準備をしている。

床に寝ていた美波が目を覚ます。

くるみ 「おはよう」

明るい表情になっている。

美波 「おはよう。元気になった?」

くるみ 「美波のおかげで。勝手に台所使っちゃった」

美波 「全然いいよ」

と、笑顔の二人。

くるみの近くで、美波の携帯が光っている。

6. 美波の部屋・室内（夜）

美波、テレビを見ている。

くるみからの着信。

美波、テレビを見たまま対応する。

美波 「ごうしたの?」

くるみの声 「昨日の実行しようと思って」

美波 「え？」

くるみの声 「慰謝料」

美波 「今朝は……」

美波、言いかけた言葉をやめる。

美波 「無理だと思っよ」

くるみの声 「やっぱり、諦められない」

美波、溜息をついてから、

美波 「あのさ、人同士の付き合いつて、100%片方が悪いっ

てないんじゃないかな」

くるみの声 「どういこと？」

美波 「お互いにね」

くるみの声 「50/50(フィフティフィフティ)ってこと？」

美波 「そう……かな」

くるみ、笑い出す。

美波 「どうしたの？」

くるみの声 「ねえ、私が何も知らないと思った？」

美波、絞り出すように、

美波 「……何が？」

くるみ、小声で何かを言っている。聞き取れない。

美波 「じめん。よく聞こえない」

くるみ、はっきりと低い声で、

くるみの声 「絶対、許さないから」

電話が切られる。

テレビからは下品な笑い声。

美波、携帯に向かって、

美波 「パパ活女がうるせーよ……」

7. 道(夜)

T「一年後」

イルミネーションで飾られている。

巨大なツリーまでの大行列。

美波、行列の中を歩いている。隣には彼氏(凌)ではない。
ない)。

幸せそうな笑顔。

ツリーを見上げる二人。
美波、人にぶつかられる。

女の声「50/50でしょ？」

美波のコートに血が滲む。

倒れる美波。

美波、彼を探すが、いない。

美波の周りに人だかりが出来る。皆、スマホカメラ

で撮影しているが助けがない。

コートの血が広がっていく。

8. 道(夜)

凌、歩きながら電話している。

凌 「びびった。あれ、美波じゃん」

凌 「俺？ 大丈夫っしょ」

凌 「じゃあ、恐いから泊めてー」

凌の笑い声が響く。

その瞬間、凌の腕に何かが飛びついてくる。

凌、驚いて、腕の方を見る。

くるみ 「凌ちゃん」

満面の笑顔のくるみ。

(おわり)